

常任委員会の先進地視察報告

総務建設産業常任委員会

- 住民参加のまちづくり -

視察地 茨城県日立市
視察日 10月6日、7日

総務建設産業常任委員会は「住民参加のまちづくり」をテーマとして、日立市・塙山地区を視察研修してきました。日立市は人口20万人弱の日立製作所を中心とする企業都市として繁栄してまいりました。日立市のまちづくり（コミュニケーション活動）は、昭和46年の茨城国体を契機に始まりまし



茨城県日立市にて

た。行政側の「きれいなまちで国体を」の呼び掛けに市民から「自分の地域は自分の創意と努力で作りに上げる」という協働意識が生れたことから、小学校区ごとに21支部が連帯し、日立市民運動実践協議会が発足、市役所にも支援する「市民活動部」が設置され、市民が参加しないまちづくりは、真のまちづくりではないという観点で活動が推進された。先駆的な塙山地区で

文教民生常任委員会

- 環境対策事業 -

は、5つの柱として、

支え・愛 守り・愛
ふれ・愛 地球・愛
育ち・愛 をテーマにそれぞれ担当を決めて積極的に取り組んでいました。地域・社協及び市と連携した活動が認められ、内閣総理大臣表彰をうけております。



環境モデル都市

飯田市に学ぶ

視察地 長野県飯田市
視察日 10月14日、15日

飯田市は、長野県の最南端・伊那盆地に位置し、恵まれた自然環境を生かし、2007年には環境文化都市宣言を行い、人も自然も輝く文化経済自立都市の理念に基づき、産業づくり、地域づくり、人づくりを実践しています。2009年には環境



長野県飯田市にて

モデル都市の認定を受け、低炭素で活力あふれる環境文化都市・飯田を目指し、先駆的取り組みを実践しています。

STEMの展開
2、移動手段の低炭素化
3、産業界との連携
4、低炭素社会に向けた地域全体の意識改革

飯田市環境モデル都市行動計画の概要は次の通りです。

温室効果ガス排出削減目標は、2005年対比

1、「おひさま」と「もり」のエネルギーの総合利用への展開

で2030年40～50%、2050年70%の削減と

太陽エネルギーの利用促進

具体的取組についても各項目に数値目標を設定し、市民共通の目標として実践しています。

環境視点からの木材利用と森林管理の推進

学ぶことの多い視察研修でした。

建築物の省エネ

中心市街地におけるタウンエコエネルギーシ

ンエコエネルギーシ